

第2期飯塚市地域福祉計画 共助の取り組み状況一覧表 (市内20地区の地域福祉ネットワーク委員会関係者からの聴き取り調査結果)

【基本目標 1】 お互いを大切にしようひとりごと

活動目標	具体的な取り組み	実施した事業など	平成28年度の活動実績・成果等	問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
(1) 人権の尊重と地域福祉の意識醸成	①人権の尊重を基盤とした福祉意識の向上	1 人権同和問題研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきサロンで人権同和問題研修会を実施している。</li> <li>・市主催の人権同和問題研修会に各自で参加している。</li> <li>・NPO人権ネットと連携し「障がい者の人権」について研修を実施した。</li> <li>・「人権推進懇談会」を実施した。(地区社協、自治会長、民生委員、公民館長、PTA等で自主運営をしている。(200円の会費を徴収))</li> <li>・人権週間のチラシを配布した。</li> </ul>		
		2 福祉委員研修(地区社協、ネットワーク委員会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「福祉委員活動について」、「食中毒予防のポイント」を開催した。</li> <li>・「認知症サポーター養成講座」を開催した。</li> <li>・新規事業実施のため、ネットワーク委員会に3分野の小委員会を設置し、各小委員会で新規事業を実施する仕組みづくりを平成30年度からの実施にむけ協議中。</li> <li>・ネットワーク役員研修として、鎮西ネットワークが実施する徘徊捜索模擬訓練(3回)に参加した。</li> <li>・飯塚市防災危機管理監より「水害や地震から身を守り、生き延びるために」の講演会を開催し、自治会長、民生委員、福祉委員などが参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉委員の高齢化による後継者の確保が課題。</li> <li>・高齢で少し認知症の症状がある人が車の運転をしている。福祉委員としてどう対応したらよいか心配であるので、そういう学習をしたい。</li> <li>・福祉委員研修は平日仕事で参加できない若い世代への呼びかけが課題。土日開催の検討が必要。</li> </ul>	
		3 男性料理教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の引きこもり対策として、いきいきサロン、老人クラブ料理講習会において男性料理教室を実施した。</li> </ul>		
		4 小学生の福祉体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生の福祉体験(車いす、白杖体験。点字学習)を実施した。平成29年度からは手話も実施予定。</li> </ul>		
		5 視察研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「盲導犬訓練センター」、「歴史資料館」を訪問した。</li> <li>・サービス付き高齢者向け住宅の施設見学を実施した。</li> <li>・障がい者支援施設の視察研修を行った。知的障がいについての理解を深めることができ、とても良い研修であった。今後は施設の方に、ネットワークの催しに参加いただけるよう検討を進めたい。また、地域の障がいがある人にも施設を紹介できるようにしたい。</li> </ul>		
(2) 地域福祉の担い手づくり	①活動へのきっかけづくり	6 自治会への加入促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人間関係は良好で(希薄化は感じられず)、「まちづくり」ができていると思う。</li> <li>・体育行事への参加や獅子舞の活動を通じて、若い世代への参加につなげることができている。</li> <li>・地区の方はほとんど自治会に加入している。</li> <li>・自治会費を徴収していない(自治会加入の負担軽減のため)。</li> <li>・転入者に対し、自治会長から加入を依頼している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層は加入しない人が多い。地域行事に無関心、仕事が忙しいなどが理由。</li> <li>・自治会未加入の理由は、役が回ってくる、地域と係わりたくないなど。組費は払うが活動には参加しない。1人暮らしで情報不要だからと脱退するケースもある。</li> <li>・施設入所等により脱退する高齢者も多い。</li> <li>・アパート、マンションの加入率が低い。</li> <li>・自治会加入のメリットを感じられないとの意見が多い。</li> <li>・子どもがいる世帯は子ども会を退会したら自治会も脱会するケースがある。</li> <li>・1人暮らしになった高齢者の脱退も目立つ。年金収入が少なく自治会費を払うことが難しい。</li> <li>・転入者には転入手続の際に市が加入案内を行い、その連絡を自治会が受けるようになっているが、連絡件数が(実際の転入件数よりも)少ないように感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政に頼らず自治会でやるべき。(自助があって共助がある。公助ばかりに頼るのはどうか。)</li> <li>・自治会への加入案内は行政が積極的に行うべき。</li> <li>・自治会加入を条件とする条例をつくることはできないか。</li> <li>・市営住宅でも自治会に未加入のところがある。入居には自治会加入を条件とすべきでは。</li> <li>・自治会の役割について講習を行うことなどが必要ではないか。</li> <li>・防犯灯やゴミ出しなど必ず知っていただかないといけないことがあるため、自治会未加入者からも防犯灯の費用を徴収することを考えている。</li> <li>・自治会に入るメリットをつくる取り組みが必要。そのための知識を持った人をどう取り込んでいくかが課題。</li> <li>・自治会加入率の低下がコミュニティ機能の低下を招いている。地域のつながりを強化する取り組みが必要。</li> <li>・中心人物(自治会長)の積極的な取組が必要である。自治会に若い世代がいると子どもの参加にもつながる。</li> </ul>
7 地域の担い手づくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事において各団体が非常に協力的で、体育祭や文化祭で担い手として活躍いただいている。</li> <li>・若い自治会長の尽力により若い世代のイベントへの参加が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役職を持つ人が固定している。世話人の高齢化と後継者不足が問題。</li> <li>・年金支給も65歳からで、その年齢以前の方は仕事等のため地域活動に参加できない。</li> <li>・仕事をしている人は福祉活動への参加は難しく、仕事を離れた50-70代が中心となる。</li> <li>・まつり等への親子での参加は多いが、親は仕事が忙しく、子どもも習い事で後継者が育たない。</li> <li>・老人会が2つの自治会でなくなった。役員になり手がなくなることが原因。高齢者の互助の精神が希薄になってきている。</li> <li>・若い担い手がいない。以前はスポーツ大会等も頻りに開催され、30-40代の参加も多かったが、今は開催することができない。</li> </ul>		
8 ふれあいフェスタ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいフェスタを社協築穂支所で開催し高齢者を中心に千名程の参加があった。(学校への周知、送迎バス(2路線)配車を実施。)</li> </ul>			
9 福祉事業への見学の周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校だより等を通じて「いきいきサロン」などの福祉事業の見学の呼びかけを行った。少数ではあるが保護者の見学が続いている。</li> </ul>				

(3) 多様な地域福祉活動の促進 ①活動しやすいフィールドづくり	10	各種団体への助成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協から助成金を交付(身体障害者福祉協会、子育て支援団体、高齢者見守りボランティア)</li> <li>・ネットワーク委員会から補助金を交付(男性料理教室)</li> <li>・体育振興会、身体障害者福祉協会、女性ボランティア、子ども会、交通安全、少年補導に助成金を交付している。</li> <li>・各団体への助成には事業計画書を提出させ、用途不明や領収書のないものは助成しないなど経費の精査を行っている。</li> <li>・自治会からは各団体(老人会等)に助成を行っておらず、各団体が自主財源で活動している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助成金は香典返しを財源としているが、減少傾向にあるため削減の可能性あり。</li> </ul>	
	11	地区における地域福祉活動計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉活動計画についての評議委員会を実施した。(継続)</li> <li>・平成29年度に地域福祉活動計画を策定し、全世帯に配布予定。</li> <li>・小地域の福祉計画を作成するためのデモンストレーションを実施した。</li> </ul>		
	12	花壇の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども会、婦人会、老人会がなく交流の場が少ないので、自治会に花壇を作成し自治会加入のきっかけになるよう活動している。(参加費年500円)</li> <li>・小学校や公民館の花壇を作っている。</li> <li>・公園の草取りやアジサイの植栽を行っている。</li> <li>・花いっぱい運動の支援として、社協と協力し婦人会のいくつかのグループが実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアが高齢化しており、活動を継続するうえで後継者の育成が課題となっている。</li> </ul>	
	13	各種団体の広報の支援(内容充実)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協だよりを公民館に掲示し、各種活動の周知徹底を図っている。</li> </ul>		

【基本目標 2】 支え合う地域づくり

活動目標	具体的な取り組み	実施した事業など	平成28年度の活動実績・成果等	問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など	
(1) 地域における交流活動の促進 ①地域での交流の機会づくり		1	いきいきサロン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校、保育所と交流を図った。</li> <li>・小学1-4年生が学校行事として参加するなど交流を図っている。また、児童クラブの祭りにも参加している。</li> <li>・多いところは年間10-20回実施している。</li> <li>・いきいきサロンは全自治会で実施されており、毎月ネットワークに活動報告を行っている。</li> <li>・いきいきサロンとは異なる独自の高齢者交流事業を参加者の自己負担で実施している自治会もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少し参加者が減ったようだ。</li> <li>・弁当を作っている自治会があるが、作り手の高齢化や予算が少ないことが課題である。</li> <li>・世話人の高齢化、平日開催のため若い世代のボランティアが参加しにくい。</li> <li>・忙しい、書類を作らなくてはならないなどの理由から新規の立ち上げが進んでいない。</li> <li>・いきいきサロンや敬老会には男性の参加が少ない。</li> <li>・参加者が年々減少し、メンバーも固定化している。役員になる負担を減らすため同じ方がずっと役員をしてくれている。参加者の交通手段確保のため、民生委員で調整し送迎している。</li> <li>・概ね60歳以上を対象としているが、参加することで老人として見られるのに抵抗があるなどの理由から参加しない人がいる。</li> <li>・参加する人とまったく見向きもしない人に分かれる。特に男性の参加が少ない。</li> <li>・いきいきサロンの未実施の地域へのお試し開催を行った。評判は良いが担い手がいないため継続しない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもとの交流イベントがないため、実施を検討している。</li> </ul>
		2	グラウンドゴルフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生と高齢者で年8-9回実施し、他の地区との交流試合も年2回実施した。</li> <li>・小学校のグラウンドで2面行っており、ほとんどが50歳以上だが、子どもたちも参加している。</li> <li>・グラウンドゴルフ大会を校区社協と老人会で共催した。</li> </ul>		
		3	子ども球技大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども球技大会を開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの数が減り、球技大会参加チームが減少傾向にある。</li> <li>・少子化、学校のクラブ活動、塾通い等の理由で参加者が集まらない。</li> </ul>	
		4	さつま芋づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生を対象に、さつま芋づくりのイベントを開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者がいないため、平成29年度からは実施できなくなった。</li> </ul>	
		5	ふれあい会食会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会食会で保育園児と交流を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50名程参加者があり、手伝いを含めると100名を超える。会場が狭いため対象年齢の引き上げを検討する必要あり。参加者のためタクシー代を交付している自治会もある。</li> <li>・80歳以上の高齢者が年々増加し、会場確保、送迎等の関係で、勧誘方法や内容の再検討が必要。</li> <li>・参加者の送迎を民生委員に頼っているが限界があり、移手段に課題がある。バス送迎も考えたが狭い道に入れない。</li> <li>・運転手を借り上げて送迎を行った。移手段を確保しないと自発的な参加がない。</li> </ul>	

	6	どんど焼き	・校区社協共催で自治会長、PTA、おやじの会等が参加し、餅つき、豚汁等を提供した。	・小学校が統合され、どんど焼きやグラウンドゴルフなどの会場をどこにするかが課題。会場によっては参加できない人もでてくる。		
	7	子ども餅つき大会	・小学校と連携して餅つきイベントを実施している。			
	8	地区住民運動会	・若い人が大勢参加されており会話を通じて親しくなった。若い人と交流できる場をつくり会話することでつながりをつくり、そのつながりを通じて担い手を増やしていきたい。 ・住民運動会は体育振興会主催で地区社協の助成と地元企業が協賛している。 ・老人クラブ運動会を土曜日に変更し、子どもが参加できるようにした。	・土日に行事があっても若い人は家庭サービスを優先し、なかなか参加しない。地域行事への若年層の取り込みが課題。		
	9	学校行事への参加	・まち協で6年生の田植えを実施。餅米を福祉施設に配っている。 ・地域と子どものふれあいフェスティバルでは、児童全員参加で、保護者によるバザー、ゲームイベント、親子ウォーキングなどを実施した。平成29年度からはどんど焼きとフェスティバルの2本立てで開催予定。 ・三世代交流会は平日に学校行事として実施、高齢者、中学校の吹奏楽部とその保護者で交流を図った。	・地区と校区が異なる自治会があり、イベントへの参加や情報伝達の面で困っている。		
	10	その他各地域事業の開催等	・AED講習会やパソコン、カラオケ教室を実施した。 ・まちづくりフェスタへ児童全員への呼びかけを行った。 ・交流ウォーキングを実施した。 ・認知症カフェを実施している。 ・三世代交流会を実施している。 ・子育てサークルとの交流を行った。 ・まちづくりフェスタを開催した。	・小学校の統合により、校区行事をどのような体制で実施していくか協議中である。平成28年度は別々に事業を実施したが、平成29年度は合同で行う話もあがっており、やれるところから一緒にやっていく予定だが規模がかなり大きくなるので、難しい面もある。 ・参加者を増やす努力は各団体とも随時行っているが難しい。	・各事業とも子どもの参加が習い事やクラブにより減っているため、学校と連携して事業を行うようにする(たとえば、学校行事とタイアップして福祉体験を行うなど)。	
	②活動の場の利用促進	11	公民館等の利用	・公民館内に事務局を設置し、地区社協、ネットワーク委員会、民協の打ち合わせや相談事業を実施している。 ・地域交流やネットワーク委員会で忠隈住民センターを利用。いきいきサロンは地区の公民館を利用している。	・ネットワーク委員会及び地区社協の会議等は人権啓発センター、いきいきサロンは各地区公民館、まち協は小学校を利用しているが、利用者の高齢化が進んでいるので施設のバリアフリー化をしてもらいたい。	
	①地域の困りごとを把握するしくみづくり	12	長寿弁当	・長寿弁当により高齢者の見守りもできている。 ・保健所から公民館でつくる許可がおりず、現在は外注の弁当を配食している。 ・婦人部、民生委員でお弁当を作っている。 ・学校からの提案で、弁当に小中学生からの手紙を添えて配食した。 ・個人負担300円を徴収し、不足分は公民館の補助に配食をしている。地域の高齢者の安否確認に役立っている。	・長寿弁当は配食の際の声掛けやお話を目的としているが、配食の際に不在の方がいる。 ・弁当の準備が大変。(平成29年度は会場を借り、弁当は注文する予定) ・約140名に対し、ボランティア(主に民生委員の25名×2グループ)が朝8時から弁当を作り、民生委員が配食している。ボランティアを公募しているが減っているのが現状。 ・ボランティアの高齢化による買い物等の移動手段、協力者確保に課題がある。	
		13	電話訪問(声かけ運動等)	・声かけ運動を老人クラブ等が通年で実施している。 ・民生委員と福祉専門委員が相談にあたっている。 ・ボランティア連絡協議会に登録した、ふれあい電話ボランティアが週2回交替で実施している。	・連絡がつかず安否確認に行ったところ、具合が悪く倒れていたことがあった。 ・電話の効果について疑問視する声もある(福祉委員や民生委員による日常の見守り活動と重複する)。 ・介護サービス等の利用により昼間不在が多く、活動が減少傾向にある。	・対象者は減少傾向にあるものの、本当に困っている人がいないか掘り起こしを進めている。
		14	問題を抱えた児童への対応	—	・不登校に近い子ども達がいるので、不登校のケアができるつどいの広場のような場所を設けてほしい。	
	②地域での見守り活動の促進	15	民生委員による見守り活動	・月1回、高齢者世帯に対し福祉情報提供と困りごとなどの情報収集を行っている。 ・民生委員・福祉委員で毎月単身高齢者へ面会しており、地区での見守りや要支援者の把握はできている。 ・福祉委員、民生委員が定期的に自宅訪問を実施している。 ・各自治会の福祉部会で民生委員、福祉委員の情報交換を実施した。 ・一人暮らしの方を重点的に見守り活動を行っている。 ・隣組長が毎月1日、15日の回覧板等の配布時に1人暮らし世帯見守り活動を行っており、様子がおかしいときは自治会長、民生委員、福祉委員に連絡を行うようお願いをしている。 ・福祉委員が自宅訪問し、不在の人には電話訪問を行っている。気になる人については民生委員に報告している。 ・民生委員会で、悩みごと・困りごとについて情報交換し、問題解決につながるような協議を行っている。 ・民生委員の電話訪問を楽しみにしている人もいる。	・サービス事業所が充実してきてデイサービスを利用する人が増えたことにより、見守り活動も減少傾向にある。 ・民生委員の定年がなくなり、後任も育たず代わることができない。(10数年ほど同じ人) ・民生委員活動が大変(2つの自治会を掛け持ちする人や担当世帯が350以上の人など)	

		16	子どもの通学時の見守り活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全週間時に全自治会で声かけを実施している。</li> <li>自治会が毎朝ボランティアで通学時の見守りを行っている。また、中学生を対象に青少健が夜間に青パトで巡回している。</li> <li>新1年制に帽子・ランドセルカバーを配布している。</li> <li>春・秋の交通安全期間に全自治会の30箇所7時～8時の間、自治会長、民生委員、組長等が実施している。</li> <li>毎日夕方に学校付近で見守りを行うなど、年間をととして活動している。</li> <li>通学時の見守りは青少健で強化月間を定め実施。</li> <li>子どもの通学時の見守りは、自治会、民生委員、青少健が交代で実施、まち協も月3回実施。</li> <li>通学時の見守りは、子どもの数が少ないので全員を把握できている。</li> <li>子どもの通学時の見守りはPTA、自治会長、ボランティア等が月2回実施。</li> <li>地区社協、ボランティアの10名程がほぼ毎日朝夕の見守りを行っている。(実施4年目)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全協会の支部があるが、構成メンバーがボランティアであり、組織のどの部に属するかが明確でなく、保険を掛けていないのが問題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>菟田小では17時に帰宅するよう放送を行い、子どもの意識付けに成功している。ぜひ、飯塚市全域で実施してほしい。</li> </ul>
		17	地域での見守り活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童館で年1回、世代間交流を実施しており、高齢者を連れ出して参加してもらうことにより高齢者の見守りはできている。</li> <li>緊急時には組長、福祉委員より自治会長へ連絡する体制が整備されている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の社会福祉協議会では高齢者・障がい者に対する事業しか行っていない。児童福祉事業も行うべき。そうすれば、高齢者、障がい者、児童とのつながりを作ることができるのではないか。</li> </ul>
<p>(3) 災害時要援護者支援体制の充実</p>	①要援護者の情報把握	18	避難行動要支援者実態調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難行動要支援者の同意書もらった人には、台帳を隣組長に渡してよいか確認している。</li> <li>日頃の安否確認により支援が必要な人の把握はできている。</li> <li>避難行動要支援者は地域の連携により把握できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の実態調査と地区の実態調査があり、事務局作業が大変である。</li> <li>避難行動要支援者について民生委員は把握しているが個人情報の取扱いに苦慮している。隣組長にどこまで情報をだしていいのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難行動要支援者名簿は自治会長・民生委員に配付されているが、地元の消防団にも配付すべきではないか。</li> </ul>
	②災害時支援体制の確立	19	自主防災組織の設立・活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災講習会を実施した。</li> <li>防災備品の点検等を実施した。</li> <li>災害時の相談には住民センターへの避難を勧め、避難者には自治会へ連絡するようにお願いしている。</li> <li>自主防災組織の設立はしていない。</li> <li>年1回地震を想定した避難訓練を実施している。(150名程参加)</li> <li>地域の中で災害時の声掛けについて申し送りをしている。</li> <li>災害用備品を少しずつ揃えている。</li> <li>地域の中で災害時の声掛けについて申し送りをしている。</li> <li>災害時の援護体制(組長→福祉委員→民生委員→自治会長と情報伝達体制)の確立を検討中。</li> <li>土砂災害に備え早めの自主避難を呼びかけており、いつでも公民館に避難できることを老人会にも伝えている。</li> <li>まち協福祉部会と総務部会合同で75歳以上の1人暮らしの希望者に対し無償で地震による家具等転倒防止対策を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最近、災害がないため防災意識が薄れてきている。</li> <li>浸水地域がなく防災意識が低い。先進地視察を検討中。</li> <li>避難所が公民館だが土地が低く、大雨が降れば危険なため、地域住民の水害等に関する防災意識を高める取り組みが必要。</li> <li>設置されている防災用具の使い方がわからない。</li> <li>水害等の災害被害が少ない地域のため防災意識は低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害を防ぐため、体制づくりや各自治会での避難場所決定、障がい者の避難体制を整備する。</li> <li>自治会単位でAED設置が望ましい。市の補助があれば購入すると思う。</li> <li>空き家についても把握している。ほとんどは所有者により定期的な管理がされている。</li> <li>地域のNPO法人と地区社協が災害時の援護協定を締結している。</li> <li>台風等もあるので避難情報の連絡体制整備が必要。市の避難所マニュアルが完成したらすり合わせて作成する。</li> <li>防災研修に全日程参加することが難しい。</li> <li>地域で防災訓練を行うことが難しいので、市が地域の防災(防犯)訓練等を行ってほしい。</li> <li>防災無線の整備など伝達体制の見直しが必要と考える。</li> <li>市の取組として各校区で年1回AED講習の実施を検討してほしい。</li> <li>防災リーダー研修は平日開催で参加が難しい。土日の開催をお願いしたい。</li> <li>災害時に避難所が遠い。自治公民館に避難しようにも毛布などが無い。各自治公民館へ毛布を配給するなどできないか。</li> </ul>
		20	緊急連絡カードの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急安心カードの取組を実施した。</li> <li>緊急連絡カードの内容について、変更が生じたものを随時更新した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急連絡カードは、記載内容に変更が生じると随時更新しているが、民生委員や福祉委員が交代したときには全員分の更新が必要となり大変。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急連絡カードの定期的な更新を検討する。</li> </ul>
		21	防犯防災福祉マップの作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災マップを作り更新している。</li> <li>福祉マップの作成が完了した。</li> <li>防災の啓発を実施している。現在、災害マップ作成中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災マップ(平成23年頃社協作成)の更新作業ができていない。</li> <li>要望もあり防災マップの更新が必要。</li> </ul>	
		22	防犯組織の設立・活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>暗い箇所にLED街灯を設置するなど防犯の取組を実施した。</li> <li>青パトによる防犯活動を実施した。</li> <li>まち協で自主防犯組織づくりを検討中である。</li> </ul>		

【基本目標 3】 つながるしくみづくり

活動目標	具体的な取り組み	実施した事業など	平成28年度の活動実績・成果等	問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
(1) 情報提供体制の充実	①情報提供方法の充実	1 各地区・支所だより発行(年2回程度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任自治会長や福祉委員に記事をお願いしている。</li> <li>・福祉関連事業・活動について周知している。情報は公民館報にも掲載している。</li> <li>・ネットワーク委員会の取組みや、いきいきサロンの案内、共同募金等の記事を掲載している。</li> <li>・ネットワーク委員会の活動を掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉だより、ネットワークだよりの各自治会への配布が大変である。</li> </ul>	
		2 自治会広報誌発行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会で自治会だよりを発行し、イベントや地域情報を提供している。詐欺被害の対策としてテレビモニター設置の呼び掛けや、高齢者のゴミ出しの補助について周知し、実施につなげた。</li> </ul>		
		3 ホームページ作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協コーナーを作成し、随時更新している。</li> </ul>		
	②情報バリアフリーの推進	4 障がい者協議会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協・民生委員・まち協・地域の障がい者支援施設で構成される「障がい者協議会」において、相互の情報交換を行っている。</li> </ul>		
(2) 相談体制の充実	①相談体制の充実	5 福祉委員制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉委員が個人で受けた相談について、福祉委員研修で全体協議を行い、情報の共有を図っている。</li> <li>・福祉委員が積極的に活動している。(34名、訪問活動数1,947回)</li> <li>・福祉委員が巡回して安否確認を行っている。</li> <li>・民生委員、地域包括支援センター、社協との連携は取れており、困っている人に目が届く体制はある程度できていると思う。</li> <li>・日頃の見守り活動の中で、民生委員や福祉委員が訪問した際の情報や問題点を在宅介護支援センターへ連絡している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉委員は就労している方が多く、平日の活動が困難な人もいる。</li> <li>・福祉委員制度については、1人で複数の役を持っている人が多く、活動が困難。</li> <li>・民生委員と福祉委員の日頃のコミュニケーションがとれない。合同研修会を年1回実施しているが、日程等の調整が難しく回数が増やせない。</li> <li>・認知症の疑いがあると相談を受けた時に本人に会いに行くと、本人には認知症の自覚がなく次につながらないことがあった。</li> <li>・様々なサービスがあることを知らない地区の役員もいるので、知識を増やす取り組みが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員の熱意により福祉委員の活動が活発になる。</li> <li>・困りごとをすぐに民生委員に相談できる体制づくりが必要。</li> <li>・福祉委員は通常3年任期であるが、委員になる人がいないため、1年任期としている地区がある。その結果、経験者が増えて、地域の見守りに協力をいただいている。</li> </ul>
		6 心配ごと相談事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいセンターで心配事相談を実施している。専用電話あり。</li> <li>・公民館報で心配事相談日をお知らせしている。</li> <li>・福祉委員が随時相談受付を行っている。受けた相談については民生委員、自治会長とも相談している。</li> <li>・地区社協の相談窓口を設置している。</li> <li>・民生委員、行政相談員、人権擁護委員のうち2名で対応している。</li> <li>・人権擁護委員3名と行政相談員1名が登録されており、そのうち3名で輪番対応。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が少ない。実施場所までの移動手段がなく会場に来られないのが原因ではないか。</li> <li>・心配ごと相談は公民館が事務局になり受け付けているが相談件数は少ない。</li> <li>・心配ごと相談事業は年々相談件数が減少している。</li> </ul>	
	②相談窓口間の連携	—	—	—	—
(3) 権利擁護体制の充実	①権利擁護体制の充実	7 権利擁護に関する研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利擁護についての研修を実施した。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利擁護に関する研修会を実施したい。</li> </ul>
	②福祉サービスの質の向上	—	—	—	—
(4) 地域のネットワークの強化	①要援護者を支えるネットワークづくり	8 まちづくり協議会への参画・活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設立当初は自治会長のまち協議会へ参加が少なかったが今はほとんどが参加している。</li> <li>・社協の役員も積極的に参加するようにしている。社協やネットワーク委員会の業務も従来の趣旨に基づき継続して行う。</li> <li>・まち協と各団体(地区社協、ネットワークなど)との連携は図れている。</li> <li>・まち協の部会に属し、取り組みを進めている。</li> <li>・子どもの体験学習を計画しているので、実施についてサポートしていく。</li> <li>・自治会長がまち協の専門部に入り、運営協議に加わっている。</li> <li>・後からまち協ができたが、既存団体の活動は尊重されている。</li> <li>・体育祭、地域のお祭りをまち協主催に移行するなど、できることから進めている。</li> <li>・買い物や通院のための巡回ワゴンを運営しており、年々工夫を加え利用者は増加している。</li> <li>・コミュニティバスが通っておらず買い物・通院が不便なため、準備委員会を設置し、平成29年度から巡回バスの運行を目指している。</li> <li>・まち協の環境部会ではクリーンキャンペーン、防災アンケート、防犯の取組を進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まち協の取組みが、以前から地区社協で実施していたものと変わるものではなく、いろいろな事業の役も重なり区別しにくい。</li> <li>・まち協で全部を行い、従来の地区社協やネットワーク委員会は消滅する考えの方がいるなど、地区社協とまち協の線引きが難しい。</li> <li>・同じ人がいくつも役を兼任している。</li> <li>・まち協、ネットワーク、民生委員の役員が重複しており、各活動が同じことのような気がする。</li> <li>・まち協ができたときに校区社協のことをどうするか話しておけば良かったが、同じような会議ばかりで、同じ人が同じことをやっているような気がする。</li> <li>・まち協の話は難しくわかりづらい。</li> <li>・買い物難民をどうするかが今後の課題。</li> <li>・各団体の活動は活発だがまとめるのは容易ではない。リーダーの人選も困難。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市から大学生に、行事への参加呼びかけや市に対する意見等を聞く取り組みを行ってほしい。</li> <li>・関わる者は同じなので負担が大きく大変。本当にやらなければならないことや組織づくりの支援をしてほしい。</li> <li>・いろいろな協議会があり、まち協の活動と重なることが多いので、市も各課で連携を取ってほしい。</li> </ul>
		9 赤い羽根共同募金への協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街頭募金活動を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同募金への協力者が減っている。</li> </ul>	

	10	地区社協・ネットワーク委員会の組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね前年度同様の活動を継続実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人が役をいくつも掛け持ちしており、後継者が育たない。一度役を引き受けると長年しなければならないため引き受け手を見つけることが困難。</li> <li>小学校の統合により各事業の継続が心配。まち協が中心となり検討を進める必要がある。</li> <li>地域づくりへの予算を増やしてほしい。香典返しが財源であったが、合併によりほとんどが社協本所に届けられるようになり、地域への配分が少なくなった。</li> <li>地区社協の活動財源である香典返しが減っているため、(社協本所ではなく)居住地区の社協に香典返しに行ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区ネットワーク委員会への補助金算定にあたっては、人口割、均等割だけでなく、事業割(事業計画や事業実績等に基づく配分)を設ければ、各地区のやる気が出るのではないかと。</li> </ul>
	11	認知症徘徊対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>詐欺被害、認知症の徘徊などについての報告や意見交換を行っている。</li> <li>徘徊高齢者対策については、図上訓練、模擬演習を継続して実施。平成29年度を持って一旦終了した。</li> <li>徘徊高齢者について鎮西の訓練を視察した。平成29年度より事業実施予定。(搜索組織や関係機関とのネットワークづくり)</li> <li>認知症徘徊が2件ほどあったため、鎮西の訓練に参加を予定している。</li> <li>徘徊者搜索時にも活用できるよう27町内の区域分けを行っている。</li> <li>今のところ徘徊等の大変な問題は起きていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>徘徊や認知症の情報が不足している。</li> <li>認知症・徘徊の問題はあるが、表にはあまり出ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度からフレイルチェックを実施することを検討中である。</li> <li>認知症の徘徊が増えることを想定し危機管理組織を立ち上げた(連絡網を作成)。消防・警察などと協議し訓練を検討している。</li> <li>徘徊者の問題は起こっていないが、対応するネットワークづくりを考えている。</li> <li>過去から認知症の問題には取り組んでいる。今後は徘徊者搜索のシミュレーションや子どもの行方不明についても学習をする予定。</li> </ul>
②団体間のネットワークづくり	—	—	—	—	—